

下社城(名古屋市名東区陸前町)(明德寺)

略 歴

織田信長の家臣、柴田勝家が生まれたと伝わる城である。

柴田勝家は、織田信秀に仕え、信長の弟信行の付け家老となった。

信秀の死後、家督を信長が継ぐと、信行派が清洲城の織田彦五郎と組んで、反信長の狼煙を上げた。勝家も信行に与したが、稲生の戦いで破れると、信長に恭順の姿勢を見せて降った。

信行が再度叛意を示すと、信長との器の違いに幻滅した勝家は、信長にこの計画を報せ、逆に信行を誅する事に協力している。

以後、信長の筆頭家老として北ノ庄城に封じられるまで、この地を居城とした。

現 況

明德寺のある台地が城址である。

妙徳寺がある舌状台地先端部が主郭で、東に堀切を設けていたと考えられる。

城址碑や柴田勝家誕生地碑が立つ位置は、主郭を守る腰郭であったと考えられる。

本堂裏に低い土盛があったが、これが土塁なのかどうか判然とはしない。

付近には柴田姓の家も多く、付近に冠木門風の門を持つお宅もあり、非常に面白かった。



下社城址碑



柴田勝家公生誕地碑



主郭部



北側から遠望

帝國博物館協会による